

『新生児学入門 第5版』 正誤表

このたびは『新生児学入門 第5版』をご購入いただきまして誠にありがとうございます。本書におきまして以下の誤りがございました。ここに訂正させていただきますとともに深くお詫び申し上げます。

2019年7月30日作成 2022年8月1日更新

刷数	訂正箇所	誤	正	掲載
1, 2	p.36「第2章D 在胎期間別出生時体格基準曲線とその利用法」 1. Light-for-dates (LFD) 児	b) 胎内栄養不良によるsymmetrical LFD児 c) 症候群によるasymmetrical LFD児	b) 胎内栄養不良によるasymmetrical LFD児 c) 症候群によるsymmetrical LFD児	2019/7/30
1~4	p204「第12章C 循環系の適応生理」 ◆胎児循環から新生児循環への変化 1. 胎児循環	比較的に酸素分圧の高い動脈血に近い血液	比較的に酸素分圧の高い血液	2022/8/1
1~4	p206「第12章C 循環系の適応生理」 2. 出生に伴う新生児循環への移行	肺血流量の機序には	肺血流量増加の機序には	2022/8/1
1~4	b) 肺血管の拡張	第一は酸素・アシドーシスの改善による	第一は酸素化の改善による	2022/8/1
1~4	p208「第12章C 循環系の適応生理」 3. 新生児の循環 [図12-12]	点線は体血管抵抗	点線は血管抵抗	2022/8/1
1~4	p208「第12章C 循環系の適応生理」 ◆動脈管の反応と動脈管開存症 1. 動脈管閉鎖のメカニズム [図12-13]	胎盤との分離（高酸素血流），肺呼吸の開始（PGEの低下）	胎盤との分離（PGEの低下），肺呼吸の開始（高酸素血流）	2022/8/1
1~4	p209「第12章C 循環系の適応生理」 ◆動脈管の反応と動脈管開存症 1. 動脈管閉鎖のメカニズム a) 動脈管の機能的閉鎖	動脈径が短縮し	動脈管径が短縮し	2022/8/1
1~4	p247「第14章B 甲状腺ホルモン」 ◆母体の甲状腺疾患が児に及ぼす影響 1. 母体甲状腺機能亢進症 a) 自己抗体（甲状腺刺激抗体）	母体の甲状腺刺激ホルモン（TSH）は	母体の甲状腺刺激抗体は	2022/8/1
1~4	p249「第14章B 甲状腺ホルモン」 ◆母体の甲状腺疾患が児に及ぼす影響 4. 母体甲状腺機能低下症	出生児に症状がなくても、	出生時に症状がなくても、	2022/8/1
1~4	p256「第14章D 糖尿病母体児」 ◆母体糖尿病が新生児に及ぼす影響 ●低Ca血症	低血糖による症状が生じることはまれである。	低Ca血症による症状が生じることはまれである。	2022/8/1
1~4	p310「第17章C 多血症」 ◆多血症の治療	交換輸血量（mL）＝	交換輸血量（mL/kg）＝	2022/8/1
1~4	p320「第17章」血液に関するサイトカイン療法 ◆エリスロポエチンによる貧血の治療 d) 未熟児貧血に対するエリスロポエチンの使用経験	エリスロポエチンを使用する際は、通常鉄として2～3mg/日の経口投与が行われている。	エリスロポエチンを使用する際は、通常鉄として2～3mg/kg/日の経口投与が行われている。	2022/8/1
1~4	p328「第18章B 新生児感染症の特徴」 5. 感染症の検査所見が出にくい	CRP, オルソムコイド（orthomcoid），ハプトグロビン	CRP, オロソムコイド（orsomcoid），ハプトグロビン	2022/8/1